



受講生が作るフリーペーパー

発行：毎日文化センター広島 GZO 編集室

〒730-0042 広島市中区国泰寺町 1-1-3

電話 082-245-1414 ファックス 082-245-1415

http://www.eisu.ac.jp/mainichi/

じぞう通りの名称はこの祠の中のお地蔵さんから。平和大通り（百メートル道路）が戦後に出来、祠は大通り南側の現在地に移転した。富士見町に住む西村茂さん（87）は平田屋川を知る数少ない人物。地蔵尊へのお参りを欠かさない＝2014年2月15日、鈴江康二撮影



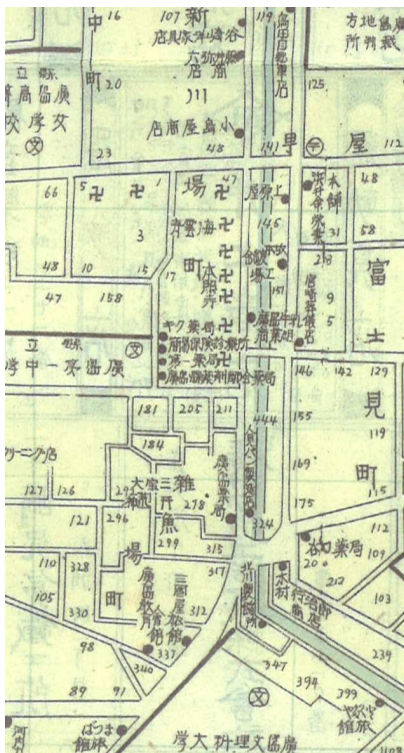
じぞう通りは川だった

毎日文化センター
広島（毎文）が面する「じぞう通り」は平田屋川という川だった。昭和27年頃まで、広島湾と現在のパルコ付近とを結び、運河として機能してきた。上原友紀がリポートします。

市役所前庭の噴水の地下には広島市庁舎の変遷を記録した資料展示室がある。その中心に原爆投下直後の広島

平田屋川戦後に埋め立て

戦時下の地図には残る



昭和14年の地図では、平田屋川が水色に塗られて表示されている
＝あき書房「戦時下の広島 復刻」から転載

市庁舎付近のジオラマが設置されている。目を凝らして見ると、現在のじぞう通りから並木通りにかけて川があるのが分かる。昭和27（1952）年頃に埋め立てられた平田屋川の流路が確認できた。広島城に物資を運び込む経路の一つに、広島湾から平田屋川に入るルートがあった。川幅は13間（23.4メートル）を出雲（現在の島根県）を出航した船は西回りして日本海から瀬戸内海に入り、広島湾に到着すると小船に荷物を積み替え、広島城築城の際に運河として造られた平田屋川を進んだ。明治時代の地図では河口は現在の広島市中区と南区をつなぐ御幸橋

メモ

広島市役所旧庁舎資料展示室 入館無料。開館8時半～17時15分。月30、31日は休館。広島駅から路面電車「バス」市役所前下車。

あたりであり、起点は本通りのパルコ本館あたりとなっていた。運河として物流を支えた平田屋川は、道路の整備や陸上輸送手段の発達によりその役目を終える。大正4（1915）年には川幅254間（3・657・2メートル）を残して両側が道路となった。その後、昭和27年頃に並木通りからじぞう通りにかけて埋め立てが行われ、平田屋川はその姿を消した。【上原友紀】